

令和7年度日光市まちづくり懇話会(豊岡地区)概要

日 時:令和7年11月20日(木)午後7時00分~8時30分

場 所:日光市役所豊岡公民館会議室

参加者:地区側参加者7名

市側参加者(市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、他地域振興課職員)

【市長】

皆さん、本日はご参加いただきありがとうございます。市長に就任して半年が経ちました。この間、豊岡地区の皆様には様々な形でご協力いただき、感謝申し上げます。

一昨日は塩野室地区で初めて懇話会を行い、今日は2カ所目です。こうした意見交換や地域の現状を伺う場を持たせていただくことが私の仕事だと思っています。まずは自治会長や住民の皆様から地域の現状や課題についてお話をいただき、今後の行政運営につなげたいと考えています。

これまでの第2次総合計画を経て、来年から第3次の総合計画が10年単位で始まります。議会にも説明中ですが、大きな柱として人口減少対策があります。日光市の人口は74,000人ですが、現状のペースで減少が続くと20年後には57,000人になる予測です。現状からの人口増は難しいので、20年後に6万人を維持することを目標に人口減少のスピードを緩やかにしようという方針です。

人口減少には、出生数と死亡数の差である自然減と転入と転出の差である社会減の2つがあります。自然減は年間約1,300人のマイナスですが、社会減も約300人です。特に日光市の課題は、若い女性の県内転出が多いことです。就職先や子育て環境を見比べて、宇都宮市や鹿沼市へ流出する傾向があります。女性が住みやすいまちづくりを進めていかなければ、この流れは変わりません。

そこで、第3次総合計画は女性や若者にスポットを当てた10年間のまちづくり計画とします。栃木県全体でも、女性の社会進出等の指標が全国的に低く、県としても改善策に力を入れています。男女共同参画や女性活躍推進を重視した取り組みが重要です。

当市は自治会長も男性ばかりです。今後は女性の活躍や人口減少対策をキーポイントとして、まちづくりに力を入れていきたいと思えます。ひとまず、私からの趣旨説明です。

事前に頂いたアンケートもありますが、話の流れで他の話題もご自由にご意見をいただければと思います。

【参加者 A】

原宿集落の話ですが、先週の日曜日、甘酒まつりや収穫祭を開催しました。集落の活気を取り戻し、皆で何かをやろうという意図で始めたものです。お母さん方を呼び込もうと、芋煮やもつ煮、焼き鳥など男性で用意しましたが、参加された女性は3名だけでした。子どもも市外に出ている3名しかいません。今後は1月のどんど焼き等も計画していますが、なかなか思うようにはいきません。

夢を語るような話ですが、集落で田んぼを組織化して、皆で協力して将来は子どもや孫に引き継げるような体制を作ろうという話も出ています。まだ実現に向けて具体的な動きはできていませんが、行政からアドバイスや支援をいただいて、形にしていきたいと考えています。

これから人口を増やすのはできないが、集落を維持するには出ていく人を減らし、組織で活動しなければ難しいのではと思います。資金や拠点、運営のノウハウが課題なので行政の支援があるとありがたいです。

【市長】

田んぼや畑については元々農業者がいるわけではなく、1から始めるという状況でしょうか。また、現場で

動ける若いプレーヤーがそもそも少なくても色々なことをやりたいが動けない自治会が多いと聞くが原宿自治会もそのような状況ですか。

【参加者 A】

現状では、集落で私だけが田んぼをやっています。田んぼを持っている人は多いが、皆預けてしまっています。人手不足で、今年は獅子舞もできない状況です。

【市長】

他の地区でも伝統行事をどうやって維持していくかが課題という話を聞いています。

【参加者 B】

川室地区も高齢化・少子化が進み、空き家も増えています。役員や自治会のなり手不足が懸念されます。定年後の人たちが65歳から自治会活動に入ろうとしても、なかなか意欲が湧かない状況です。60代の意識改革が必要だと思います。

公民館を活用して人を集め、生き生きサロン等の活動から自治会維持につなげたいと考えています。

また、自治会内に山林があり、私が自治会長になってから3回倒木がありました。地主さんも手が回らず、倒木が増えてくることで危険が生じています。市として何らかの対応策を考えていただけるとありがたいです。森林組合で間伐事業を実施しているので、それを活用することも考えています。

大室ダム付近の伐採が行われたが、どのような仕組みを使って実施したのか伺いたいです。

【市長】

大室ダム付近の伐採については担当部署から後日ご回答します。森林環境贈与税を使って山を管理する方法があったように記憶しています。

【副市長】

民間の森林について森林計画を作成し間伐を行うのが、森林環境贈与税の基本的なところです。

具体的にどのような状況ですか。

【参加者 B】

通学路(市道)に枯れた枝などが倒れたり、雨風で落ちたりしています。

【地域振興部長】

事前に担当課に確認した部分をお伝えすると、接している道路によって、市がやるか県土木事務所がやるかということがあります。木も財産なので、まずは所有者の方に対応をいただいています。危険度によって市で対応するケースがありますし、通学路の場合は、市教育委員会や警察が見回りを行っています。

【参加者 C】

市長のご挨拶の中でありましたが、女性が転出する理由について「働く場」が少ないということがあったが、それだけでなく、昔から女性が日光市に住みづらいイメージがあったように思います。昔、私の職場にいた女性同僚たちの多くが宇都宮市の方と結婚して、宇都宮市へ転居していきました。働く場や環境だけでなく、寒さや不便さなど様々なマイナス要因があるのではないのでしょうか。

また、市として防災の観点で自助・共助・公助を掲げるが、隣近所が弱くなっている現状では共助部分へのサポートが必要です。自治会加入のメリット・デメリットについても、行政サービスが自治会加入者・非加入者で同じでいいのか疑問があります。お金のかからない範囲で、メリハリのある自治会加入促進策をご検討いただければと思います。

【市長】

自治会加入は任意ですので、行政サービスで差を付けることは難しいですが、例えば宇都宮市のように自

治会会員カードを店舗で掲示するとサービスが受けられるなど加入者向けの特典で付加価値を付ける方向を考えていきたいと思えます。自治会加入率向上策について市としても議会でも継続的に検討していますので、参考にさせていただきます。

女性が転出する理由は「働く場」が少ないということだけではなく、様々な要因があると考えています。資金力がある自治体と競っても選んでもらうのは難しいですが、他の自治体に負けない特色のある子育て支援・教育支援の充実度、満足度を高めて、移住・定住促進につなげたいと考えています。

【参加者 D】

日光市にも仕事はありますが、安定した収入が得られる職業が少ないため、若い人は宇都宮市や東京都などへ流出してしまう傾向があると思えます。日光市で生活することのメリットはあるのだから、市内で安定的に生活できる仕事が増えれば定住者も増えてくると思えます。

また、自治会運営では世代間のギャップが大きな課題です。子育て世代と高齢者とは価値観が大きく異なり、コミュニケーションが難しいと感じています。栗原地区では若い世帯も増えていますが、全体と一体感がなかなか生まれません。押し付けではなく、若い世代が自発的に関われる仕組みを模索したいです。所有者不明と聞いていますが、旧ウエスタン村は規模も大きく、めずらしい施設のため、有効活用できないかと考えています。今は心霊スポットとして若者が訪れるようになっており、入口が簡易な施錠しかされていないため、外国人や若者が中に入ってしまう、吸い殻が捨てられている状況です。市や警察に相談しましたが、個人の持ち物なので、勝手に入口を防ぐことができないとのことで、数日に1度パトロールをしてもらう程度の対応となってしまっています。

【企画総務部長】

一時期、撮影会のようなもので使っていたということを聞いたことがあります。

【参加者 D】

映画の撮影などもあったと聞いています。ハーレーダビッドソンの集会所として使われたこともあるようです。

【副市長】

鬼怒川の廃墟ホテルに関しては、民間のものだが、人が入ると危険なため、市として入口をベニヤ板で塞いだことがあります。

【市長】

市で対応できる部分があるか確認します。

【参加者 E】

大渡地区も少子高齢化が進んでいますが、今住んでいる人が楽しくやろうという方針で、活性化費を予算として確保し、女性だけの忘年会など新たな試みを始めました。女性だけの忘年会は、男性が送迎し、お店を貸し切りにすることで片付けを不要としたことで、幅広い世代に渡って多くの方に参加いただきました。また、地域にいるミュージシャンなどに協力をいただき夏祭りを開催しました。さらに地域探検隊などを結成して、地元の魅力を再発見・発信する活動も行っています。

各地域で小学校の統廃合があるが、山村体験留学などを実施するなどして轟小学校は何とか残したいと思っています。また、農業系の最先端教育などを教えられる学校ができてほしいと考えており、他市とは違った若者の目をひくようなものだといい。若者の流出は避けられませんが、私たちが楽しむことで、いずれ戻ってきてくれるという期待も込めて取り組んでいます。

【市長】

色々アイデアをいただきありがとうございます。女性だけの忘年会とは凄いですね。

【参加者 F】

地域の人たちが現状を認識し、将来のビジョンを共有しなければいけないと感じています。創業セミナーを受講した際に感じたが、みんなビジネスアイデアは色々あるが、バックオフィス業務が大変で、実際に事業が始められない状況にあります。バックオフィス業務を市が手助けしてあげることで、まず事業を始めて経験できる環境を作ってほしいと思います。

総合計画の話がありましたが、今後 10 年の日光市のまちづくりや人材育成について、教育の体系的デザインが必要だと考えています。中学・高校教育は試験勉強中心になりがちですが、地域に根ざした社会教育、マーケティングや納税などの体験的な教育も重要ではないでしょうか。例えば、農園で栽培した野菜を子ども達が販売して得た収入には税がかかるなど、実体験を含めて学ぶ機会の設計も必要です。投資の勉強なども金融の方の協力をいただいて勉強することが必要だと思います。

【市長】

日光市でも職場体験などを通してキャリア教育は進んでいるが、お金にまつわる教育は確かに足りないと感じています。

【参加者 G】

豊岡地区は日光市の中でもモデル地区になれると感じています。皆さんがアイデアを実行し、自然や病院、介護施設、学校、学童など豊かな資源があります。旧小百小学校では AI 技術を活用した農業分野での取り組みが始まっていますし、学校空き教室の利活用も進んでいます。

私は都内からの移住者ですが自然が好きで自然に触れることを楽しめているが、最近の学童の子ども達は虫が苦手な子が多く、この環境で子どもが自然を楽しめていないことに、価値観のギャップを感じます。

日光市には、自然、ユネスコ、歴史など素晴らしいものがたくさんある。日光みらいキャラバンでは、日光市内にある企業が体験ブースを出店して、子ども達が仕事を学ぶことを楽しみながらやっている。日光市は災害を通してまちづくりを強化してきており、弱みを強みに変えることが可能だと思います。

まちづくりは、発展だけを目指すのではなく、今ある良さ・楽しさを発信し、ストレス社会における魅力や癒しの場として、豊岡地区が多様な検証を進めるモデルになればと思います。

【市長】

ありがとうございます。本日いただいたご意見やアイデアは今後の市政に活かしたいと思います。その他で、ご意見ありますか。

【参加者 D】

自治会長の携帯電話番号をある部署には伝えたが、別の部署は把握しておらず、不在の自宅にかかってくる場合があります。これは無駄なことなので、情報を共有してほしいです。

また、市から送られてくる封書とはがきが多く、お金を使わないようにしようと言っている動きに反すると思います。今日の会議は LINE で出欠連絡をしているが、問題なくできているので、どんどん進めてほしいです。

【地域振興部長】

電話番号は個人情報ということもあるが、市役所内部の共有はいいのではないかとご意見をいただきました。

また、連絡手段のデジタル化はごもっともだと思うので、自治会全体がそういう方向に進めるようにしていきたい。

【市長】

DX、ICT などのデジタルを使って市役所の内部もまち全体も改革していかないといけないと考えています。